平成 30 年度　事業報告書

産業と人材育成の拠点「エス・バード」開所式（平成 31 年 1 月 4 日）

公益財団法人　南信州・飯田産業センター

平成 30 年度　事業概要

平成 30 年度の国内経済は、自然災害の影響などから経済成長が一時マイナス成長となったものの、緩やかな回復基調が続きました。企業業績の改善を背景に設備投資がけん引し、生産性向上や人手不足に対する省力化投資など積極的な動きがみられました。長野県経済も、緩やかな景気回復が続き、県内の設備投資も前年度実績を上回り、特に製造業は需要の増加を背景に設備投資を増額する動きがみられました。

当地域においても、機械加工・電気電子製造業においては設備投資が積極的に行われるなど、総体的には堅調に回復基調が続いています。一方、野菜など農産物を原材料としている業種では、原材料不足、価格高騰により苦戦している状況です。また、当地域の雇用情勢は、有効求人倍率も堅調に推移していますが、「専門的・技術的職業」や「生産工程の職業」「サービスの職業」などで人手不足感が引き続き強くなっているため、各業種とも人材不足が大きな課題となっています。

政府は、「10 月に予定されている消費税率の引き上げを控え、経済財政運営に万全を期す。」「好調な企業収益を、投資の増加や賃上げ・雇用環境の更なる改善等につなげ、地域や中小・小規模事業者も含めた経済の好循環の更なる拡大を実現する。」としています。

長野県では、平成 30 年度からスタートした「しあわせ信州創造プラン 2.0」から、その実現を製造業振興の面から支えるため、「長野県ものづくり産業振興戦略プラン」を策定し、産業イノベーション創造型プロジェクトとして、引き続き「航空機システム産業の集積形成」と「健康増進と経済活性化に寄与する食品関連製造業の集積形成」に取り組むこととされています。

当地域には、リニア中央新幹線・三遠南信自動車道の開通など高速交通網の整備によるプラス効果を最大限に活かす戦略的な取り組みが必要と考えます。当地域が真の地方創生を成し遂げ、持続可能な地域を実現していくためには、リニア時代を見据え、地域に活力を生む「産業振興と人材育成の拠点」の形成と世界に誇れる飯田のスタイルを発信していくことが不可欠であり、新たに当センターの「産業振興ビジョン」を策定いたしました。そのビジョンにも掲げたとおり、平成 28 年度より南信州広域連合が中心となり国・県・産業界の協力のもと、旧飯田工業高校を活用した「産業振興と人材育成の拠点（以下、エス・バードという。）」整備事業が行われ、平成 30 年度中に無事移転を完了いたしました。さらに、特別教室棟を改修して食品系試験棟（食品分析室、調理室、食品評価室、食品試作室インキュベート室　他）を整備し、食品分析室に味覚認識試験装置（味覚センサー）、食品食感試験装置（レオメーター）、恒温器、乾燥機等を新規導入しました。

平成 30 年度は拠点の整備、移転等に追われながらも、並行して飯田・下伊那地域の産業振興の中核機関として様々な活動を展開いたしました。

産業振興面では、新産業創出支援として、航空宇宙分野においては当センターが運営しています「航空宇宙産業クラスター拠点工場」を活かしながら受注獲得に取り組み、医療分野では、飯田メディカルバイオクラスターの活動を中心に取り組みました。

既存企業の体質強化支援としてビジネスネットワーク支援センターの行う地域内企業連携製品開発支援・販路開拓支援、ネスク飯田による共同受発注に取り組み、伝統産業では関係機関と連携しブランド化への取り組み、新製品開発支援などに取り組みました。また、水引業界や菓子業界では、「飯田市産業親善大使」と連携し、高付加価値な商品開発にも取り組みを行っています。

人材育成面では、平成２９年４月に開講した信州大学航空機システム共同研究講座の運営を支援し、2名の卒業生を輩出しました。

飯田産業技術大学では、企業ニーズに対応して新たに食品系の講座を開設するなどその充実を図りました。また、この地域の将来を担う人材確保のため、昨年に引き続き、飯田 OIDE 長姫高等学校と連携し、生徒や学校関係者と企業が緊密な関係を築き、地域の企業を知り、地域に興味を持つことを目的とした事業に取り組みました。

公益財団法人として南信州・飯田産業センターは、このエス・バードへの移転を契機に、これまで積み重ねてきた知識と経験、専門的人材を活用し、策定された産業振興ビジョンに基づいて、地域産業の持続的発展を支援するとともに、更なる機能を強化し、産業振興に寄与するための支援機関としての役割を果たしていきます。

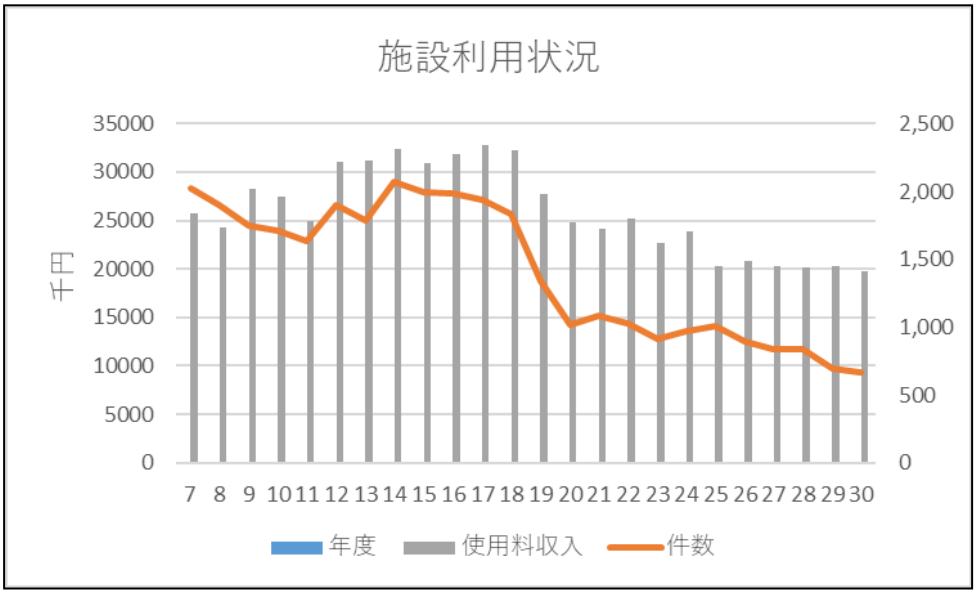
１．施設利用事業

（１）「産業センターＩＩＤＡ」及び「エス・バード」貸館事業

平成 30 年度は、センターが「エス・バード」に移転しましたが、移転後も貸館事業は継続し、ホール施設をはじめ、部屋数並びに収容人数、設備も大幅に増強された施設となりました。また、夜間の開館を１時間延長し 22 時までとしたほか、インターネットでの利用申請を開始しました。

しかし、移転後の３か月間は使用件数、入場者数、使用料収入ともに伸び悩み、年間トータルでは残念ながら平成元年以降最低となってしまいました。また、従前より広く複雑なフロア構造のため、より詳しい案内表示の充実や、一部の方からインターネット利用申請が難しいという声があるなど、新たな課題が明らかになってきました。

今後は利用者の声に耳を傾け、丁寧な対応に心がけ、多くのみなさまに利用いただける環境整備・情報発信に取り組んでまいります。



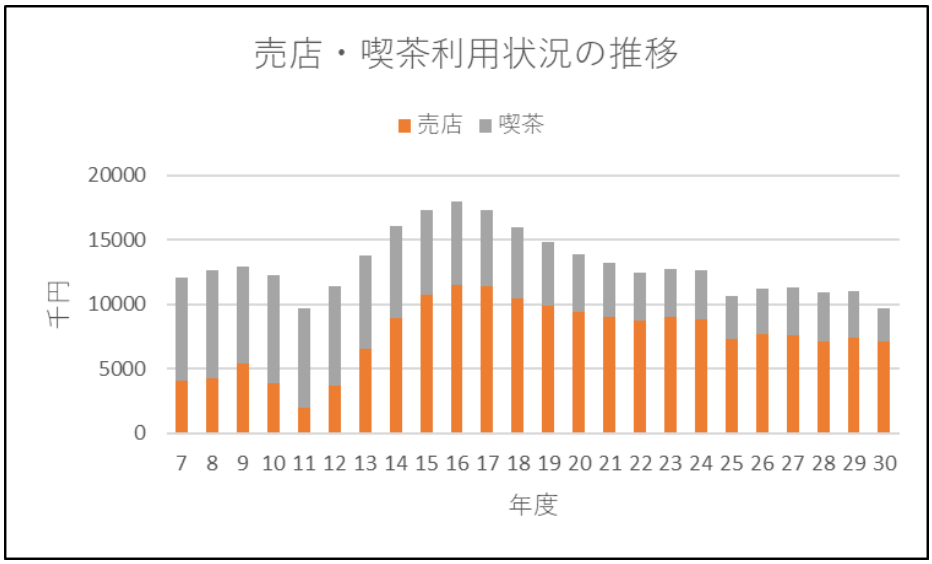
年度	使用件数（件）	入場者数（人）	施設使用料収入（円）	年度	使用件数（件）	入場者数（人）	施設使用料収入（円）
11	1, 634	71, 848	24, 965, 758	22	1, 029	44, 079	25, 236, 284
12	1, 901	80, 859	31, 052, 707	23	918	45, 960	22, 680, 332
13	1, 788	73, 223	31, 216, 362	24	973	47, 511	23, 918, 876
14	2, 068	73, 990	32, 317, 377	25	1, 004	46, 739	20, 298, 108
15	1, 998	73, 092	30, 852, 900	26	891	46, 816	20, 806, 792
16	1, 982	68, 225	31, 805, 844	27	840	47, 603	20, 336, 495
17	1, 934	67, 407	32, 838, 760	28	836	45, 311	20, 207, 985
18	1, 829	68, 632	32, 234, 160	29	700	42, 071	20, 355, 063
19	1, 345	46, 683	27, 686, 966	30	(553)	(35, 314)	(16, 105, 529)
20	1, 017	45, 355	24, 760, 105		(111)	(4, 309)	(3, 676, 500)
21	1, 081	38, 948	24, 205, 033		664	39, 623	19, 782, 029

※平成 30 年度は、「上段：4～12 月分」「中段：1～3 月分」「下段：合計」に分けて表記。

（２）売店・喫茶飲食店・展示室事業

平成 30 年度は、エス・バードへの移転により、売店・喫茶の業務は 12 月をもって終了し、あわせて「(株) あずさ」との業務委託契約も終了しました。平成 31 年１月からは、新たに売店を「南信州地場産販売（合)」、飲食店を「３びきのこぶた（(有) サンコーポレーション)」に業務委託し、営業を開始しました。販売及び収入実績については、売店、喫茶ともにほぼ前年並みでした。エス・バードにおいても旧施設と同様に、四季を通じて定期的な催事の開催や、地域ブランドを意識した品揃えの工夫を業者と協力して行っていきます。また、誰もが気軽に立ち寄れる喫茶機能の設置についても検討を進め、さらなる集客の向上に努めてまいります。

展示室についても移転に伴い大幅なリニューアルを行いました。地域産業を幅広く紹介するレイアウトのほか、場内中央にはフライトシミュレーターを設置し、多くのみなさまにフライト体験を楽しんでいただいています。また、ＣＴ生物図鑑（(株) ＪＭＣ提供）も設置し、バーチャルリアリティを気軽に体験できる場としました。今後も地域産業の情報発信機能として、さらなる充実を図っていきます。



年度	売店	喫茶	合計(円)	年度	売店	喫茶	合計(円)
11	1, 948, 684	7, 796, 392	9, 745, 076	22	8, 707, 724	3, 758, 240	12, 465, 964
12	3, 727, 830	7, 732, 047	11, 459, 877	23	8, 991, 046	3, 719, 070	12, 710, 116
13	6, 591, 516	7, 219, 090	13, 810, 606	24	8, 871, 399	3, 821, 550	12, 692, 949
14	8, 960, 376	7, 113, 263	16, 073, 639	25	7, 299, 287	3, 403, 080	10, 702, 367
15	10, 726, 588	6, 604, 289	17, 330, 877	26	7, 660, 763	3, 544, 210	11, 204, 973
16	11, 506, 225	6, 471, 476	17, 977, 701	27	7, 625, 009	3, 718, 980	11, 343, 989
17	11, 453, 982	5, 890, 438	17, 344, 420	28	7, 127, 113	3, 847, 020	10, 974, 133
18	10, 446, 672	5, 532, 643	15, 979, 315	29	7, 385, 394	3, 640, 070	11, 025, 464
19	9, 924, 580	4, 907, 551	14, 832, 131	30	(5, 369, 211)	(2, 561, 700)	(7, 930, 911)
20	9, 414, 192	4, 489, 200	13, 903, 392		(1, 790, 206)	(0)	(1, 790, 206)
21	9, 075, 368	4, 136, 165	13, 211, 533		7, 159, 417	2, 561, 700	9, 721, 117

※平成 30 年度は、「上段：4～12 月分」「中段：1～3 月分」「下段：合計」に分けて表記。

２．産業振興事業

地域内製造業者等がブランド力の向上と企業間の協力体制を築くことで、付加価値の高い商品を生み出し、企業の安定的な成長を目指して、分野ごとの事業を推進しました。

平成 30 年度は「第３回飯田水引コンテスト」を開催し、過去最多の 90 作品の応募がありました。応募者の約６割が海外も含む飯田下伊那地域外の方であり、また、約 170 人の一般審査員からの投票をいただくことができ、非常に盛り上がりました。

今後は、従来の産業センター春まつりや、ピアゴでの販売促進事業に代わる新たな地場産品の販売促進、需要開拓を推進していきます。

（１）研究開発支援

飯田市環境技術開発センターの新規入居企業に対し、インキュベート委員会を開催して評価を行いました。既存の入居企業については、オーガナイザーが定期的に面談し、必要に応じてアドバイスを行いました。

（２）新製品開発支援事業

平成 25 年度に「ものづくり製品（試作）開発等支援補助金」の交付を受け、新技術・新商品開発等を行った４社に対し、進捗状況や事業の現状と課題等の報告を促すフォローアップを行い、事業効果を継続調査しました。フォローアップは、交付から５年間と定めており、平成 30 年度を以て終了しました。

（３）需要開拓事業

①販売促進事業（主催・共催事業）

・産業センター春まつり

桜の時期に合わせて信州皮革産業連合 LICS、半生菓子業者等と連携し春まつりを開催し、多彩な地場産品の販売を行いました。

期　日：４月７日（土）～８日（日）
会　場：南信州・飯田産業センター
出　展：20 団体
来場者：約 800 人

②販売促進事業（出展事業）

・南信州売ってみまいか市

期　日：６月 22 日（金）～23 日（土）
会　場：ピアゴ飯田駅前店
出　展：６団体
来場者：約 700 人

・親子わくわく体験教室

期　日：７月 29 日（日）
会　場：南信州・飯田産業センター

水引（写真立て作り）・和菓子（ねり切り作り）・味噌仕込み・皮革（小銭入れ作り）の各クラスから選べる体験教室を開催し、104 名の親子に体験を通じて地場産業・企業等をＰＲしました。

・やまなしリニアフェス 2018
期　日：８月 24 日（金）～25 日（土）
会　場：山梨県立リニア見学センター
出　展：飯田市リニア推進課、南信州・飯田産業センター
来場者：約 4,500 人

（４）地域ブランド構築事業
①南信州・飯田地域デザインサポート事業（業務委託先（株）GK デザイン機構）
○講演会　「デザインを通して考えるモノづくりのヒント」
日時　平成 30 年 10 月 2 日　13:30～
講師　（株）GK ダイナミックス　清水尚哉取締役
（株）GK インダストリアルデザイン　津曲兼利シニアディレクター
参加　24 名
○お悩み相談会・デザインクリニック
日時　平成 30 年 11 月１日～２日（相談会）
平成 31 年２月８日（デザインクリニック）
参加　企業６社
内容　作り手のデザインに関する課題や思いについて、専門家がアドバイスをもらった。うち３社が「デザインクリニック」として、より具体的なデザイン指導を受けた。
○成果報告会
日時　平成 31 年３月６日　13:30～
講師　（株）GK ダイナミックス　清水尚哉取締役
（株）GK インダストリアルデザイン　津曲兼利シニアディレクター
参加　23 名
②ブランド化の活動支援
○菓子ブランド化
飯田のお菓子の魅力を広く紹介いただくため飯田市産業親善大使（愛称：飯田菓子大使）を務めていただいている、飯田市出身の演歌歌手「小沢あきこ」氏のブログ等で飯田のお菓子を周知していただきました。
○飯田水引協同組合
銀座ＮＡＧＡＮＯでワークショップを開催し、伝統工芸の普及促進を図りました。法政大学と連携し、浅草神社で「～人と人をつなぐ～　飯田水引ワークショップ」を開催しました。第３回飯田水引コンテストを開催し、県内外・海外から 52 人、90 点の作品応募がありました。
○つぶほまれ栽培・加工研究会
民間企業、大学、県、市町村、関係団体等が一体となり、南信州産大豆「つぶほまれ」の栽培、加工、販売を行うことで、南信州ブランドの構築を目指して活動しました。品質向上を目標に、巡回指導、集団指導等を行い、普及促進を図りました。平成 30 年度の乾燥大豆収量は 6.5ｔ。

○南信州「吉鍋（よしなべ)」

南信州地域の特産品であり伝統食品でもある野沢菜漬け、こうや豆腐、味噌を使うご当地鍋として、イベントでの提供と飲食店での提供を通じて普及活動を行いました。

（イベント提供）

・4 月 17 日（火）: 天龍峡マラソン（800 食）
・10 月 10 日（水）: 南信州うまいもの商談会（200 食）
・10 月 20 日（土）: 吉鍋フェア（400 食）
・12 月 9 日（日）: 飯田女子短期大学「吉鍋ロックフェス」(300 食）
・3 月 16 日（土）～17 日（日）: 長野×新潟サミット（800 食）

（飲食店提供）

飯田下伊那 16 店舗でメニューとして展開中

③南信州ブランド確立への取り組み

この地域に戻る・来る・残る若者を増やすために、世界に誇れる南信州の地域要因（自然、文化・伝統、ゆとりのある生活様式等）の写真と新たな地域産業創造へのメッセージを綴った書籍を進路講話や企業内人材育成のテキストとしての活用を図りました。

④農商工連携の取り組み

○農産物の鮮度維持装置活用支援

大手自動車部品メーカーのデンソーとみなみ信州農業協同組合の連携により、市田柿等の鮮度維持装置を活用する取り組みを支援しました。平成 30 年度中に市内の企業で延べ４台導入されました。長野県内他地区の農協で導入に向けた試験をしました。

○コア学園の取り組み

あちの里の商品ラベルをデザインし、りんごの里、丘の上フェスタで販売しました。

（５）地場産業活性化事業

①各種地場産業団体、グループへの活動支援

各種地場産業団体等の活動を推進するため必要な支援を行いました。

②企業体質強化事業

○連携相談事業

クラスターマネージャー、工業技術センター長、インキュベーションマネージャー等が連携し、総合的な人的支援体制をとりながら、企業からの相談に対応し、課題解決に向け継続的な支援を行いました。

（６）情報収集提供事業

主に E-mail、Fax を利用し、有益な各種情報を発信しました。

３．人材養成事業

（１）飯田産業技術大学

平成30年度は、企業から要望が多かった講座を中心に27講座を実施し、日数では85日、参加企業は226社、全受講者数は延べ913人が参加しました。特に、在職者向けの長野県スキルアップ講座との共催で実施している普通旋盤・フライス盤を使用した測定基礎コースや機械加工入門（手仕上げ加工）講座は、新入社員も含め参加者数が多く、数回実施することができました。また、特別講座において、飯田コアカレッジの出前講座三次元CAD「SolidWorks2014」、JISQ9100内部監査員養成講座、信州大学による「特別の課程」１年コース、総合研究大学院大学の社会連携事業の一環として国立研究所連続講座を開講しました。座学については、産業振興と人材育成の拠点（エス・バード）の講義室を主会場に実施しました。平成30年度に初めて開講しました「事例でわかる！製造業の「原価、業績管理」入門講座」の参加者の方からは、「講義だけでなく、実践時間があると良かった」「受講前に比べて原価・原価管理についての理解が向上した」「4Sや見える化などの身近で出来ることから改善していこうと思った」等の感想が聞かれました。

今後は、食品系試験室が整備されたことから、今まで実施が少なかった食品関連の講座を充実させます。また、アンケート等からニーズの把握に努め、新たな講座の開講についても検討を進めます。

会　場：エス・バード及び長野県飯田技術専門校

○技術講座（計21日間・延べ受講者数92人）

機械図面基礎コース/測定基礎コース/3次元CAD「SolidWorks」入門・初級コース/機械加工入門コース/機械加工初級（手仕上げ加工）コース/普通旋盤（技能検定3級レベル）コース/データの一元管理（PDM/PLM）の必要性と事例紹介講座

○経営管理講座（計6日間・延べ受講者数216人）

ISO9001内部監査員養成コース/ISO14001内部監査員養成コース/事例でわかる！製造業の「原価、業績管理」入門講座

○特別講座（計58日間・延べ受講者678人）

三次元CAD「SolidWorks2014」初級（飯田コアカレッジ出前講座）/NESUC-IIDA新年度総会記念講演/新素材・特許を活用した地域産業の創出セミナー/信州大学「特別の課程」１年コース/国立研究所連続講座「最先端の科学と技術を学ぶ」/JISQ9100内部監査員養成コース/ロボット導入セミナー/IoTセミナー

（２）新社会人育成講座

地域に新たに就職する高校生を対象に、社会人として求められる基礎能力を習得させることにより、将来の自らのデザイン力、協創して取り組むビジネススキルや会社組織におけるコミュニケーション力向上を目指した講座を実施しました。

会　　場：（公財）南信州・飯田産業センター

対 象 者：就職が内定した高校3年生のうち、参加者　50人

実施期間：1月20日(日)、1月27日(日)、2月2日(土)、2月3日(日)（全４回）

時　　間：９時00分～16時00分

実施内容：①学生から社会人になることをイメージし、新たに習得すべきことを明確に組織で成果を上げるために必要な姿勢、意識行動について学ぶ。
②組織人としての基本的なビジネスマナーと信用、信頼を得るためのビジネススキルを習得します。
③就職を前に、不安なこと、心配な点などを明確にすると同時に、先輩の話を聞き、ゲームを通じ、時間意識を持つこと、コミュニケーション力を磨く重要性を確認します。
④ひとつひとつの経験を通じて、成功からも失敗からも学ぶこと、力をつけていくことを学び、社会人１年目の働き方について、意識、姿勢、行動について目標を明確にし、良い一歩を踏み出せるようにします。

講　　師：まなびと　井坪まゆ美　氏

※受講後アンケートより

〇講座を受けて役立ったこととして、特に以下の４つがありました。
・学生と社会人の違いについて考え、社会人になる心構えを持つこと。
・あいさつ、返事、言葉使いなどのビジネスマナーを学ぶこと。
・先輩の話を聴き、不安や心配な点を解消すること。
・指示の受け方、報告の仕方、時間意識などの仕事の進め方を学ぶこと。

〇後輩へのアドバイスとして以下の２つがありました。
・不安を聞いてくれる人を見つけましょう。
・覚えることは大変ですが、会社の人はとても優しく教えてくれるので、気楽にしてください。

飯田産業技術大学特別講座

新社会人育成講座

（３）学びと働きを連携させた信州創生のための新たな人材育成モデル事業

長野県下伊那農業高等学校が、「学校での学び」と「地域での実践的な働き」が相乗的に営まれるデュアルシステムを実施するにあたり、学校、企業及び関係する自治体との調整、連携を円滑に行うため、コーディネーター業務を行った。

【業務内容】
①関係者および関係機関等へのヒヤリング
②下伊那農業高等学校との調整・検討
③企業実習先の開拓及び受入調整
・食品化学科１年生　１６企業　　・食品化学科２年生　３企業

④社会人講師の派遣調整
・３年生　４社　・２年生　４社　・その他　１社
⑤企業による課題研究指導調整　８社
⑥課題研究発表参加
・期日：２月５日　会場：鼎文化センター
⑦「学びと働きを連携させた信州創生のための新たな人材育成モデル事業」全体協議会への参加
・第１回　長野県庁西庁舎 301 号（6 月 12 日）
・第２回　長野県庁西庁舎 111 号（1 月 28 日）

（４）第 19 回ＥＭＣシンポジウム IIDA2018

ＥＭＣシンポジウム IIDA2018 では、「ＥＭＣの最近の話題とＥＭＣ対策技術最新動向」について業界等で指導的な立場の方々の講演、また、講師の方々及び技術者間との情報交流会を行いました。シンポジウムの企画・運営は、地元企業が参加するＥＭＣ委員会が行いました。講演テーマについては、ＥＭＣの最近の話題から、特に医療、自動車、通信、セキュリティ、対策部品等に絞って選定しました。

ＥＭＣシンポジウムの開催により、参加者に対して移設した飯田ＥＭＣ試験室をＰＲすることができました。今後も当地域よりＥＭＣ技術の情報発信を行っていきます。

テ ー マ：「ＥＭＣの最近の話題とＥＭＣ対策技術最新動向」
期　　日：平成 30 年 10 月 25 日（木）～26 日（金）
会　　場：シルクホテル　2 階　錦の間
参加者数：90 人
講演内容：
基調講演：「電動自動車のパワーエレクトロニクスＥＭＣ」
株式会社豊田中央研究所　高橋　篤弘氏
講演１：「医療機関における電波利用に関する現状と課題
信州大学医学部附属病院　浜野　英明氏
講演２：「５Ｇ実現に向けたドコモの取り組み」
株式会社ＮＴＴドコモ　須山　聡氏
講演３：「情報セキュリティとＥＭＣ」
奈良先端科学技術大学院大学　林　優一氏
講演４：「鳥獣被害対策向け地域型 IoT サービス事例」
株式会社サーキットデザイン　永田　修氏
講演５：「高度化する社会ニーズに対応する EMC 対策部品の最新技術動向」
ＴＤＫテクノ株式会社　中村　晃氏
講演６：「電磁界解析を利用した車載向け PCB 設計技術」
アルティメイトテクノロジィズ株式会社　中村　篤氏
講演７：「半導体ＥＭＣ評価と試験法を活用した製品レベルでのノイズ対策事例」
パナソニック株式会社 石橋　直人氏

講演８：「自動車の電動化に伴う車載電池の現状と今後の課題」
名古屋大学　佐藤　登氏
講演９：「車載光イーサネットと国際標準化」
株式会社豊田中央研究所　各務　学氏

第 19 回ＥＭＣシンポジウム IIDA2018

４．飯田ビジネスネットワーク支援センター

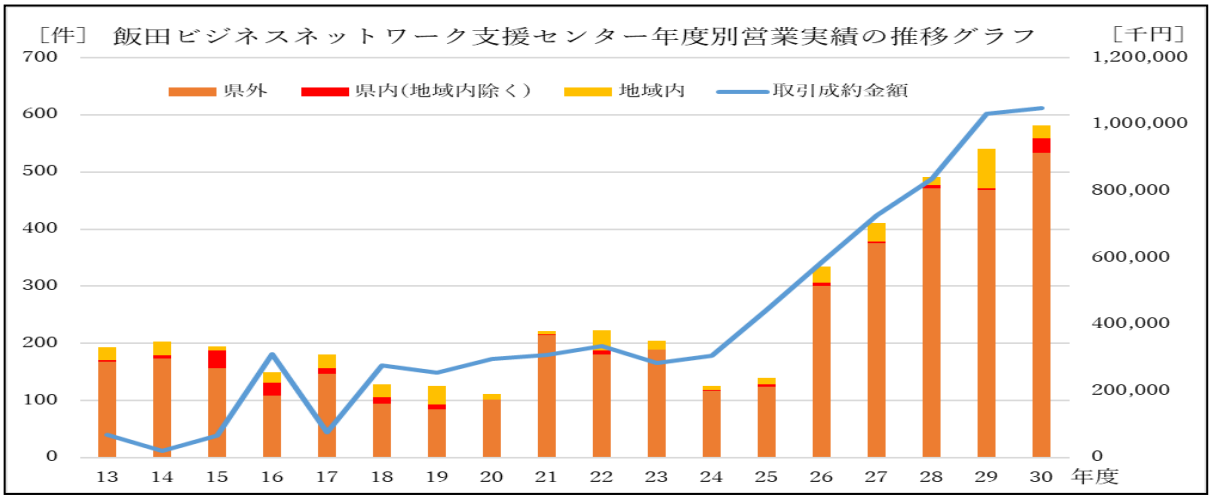
（１）共同受発注事業

第21回関西機械要素技術展など７展示会に飯田ビジネスネットワーク支援センター名で出展したほか、会員企業の出展する展示会や商談会にオーガナイザーがサポートとして同行し、この地域の技術力等をアピールし、顧客の確保に努めました。また、ＢtoＢソーシングサイトやオープンイノベーション説明会などを積極的に活用し、新たなビジネスマッチング機会の拡大を図りました。昨年と比較して、取引成約金額、引合件数、取引成約件数ともに増加しました。近年の取引は、機械メーカーとの省力化機械部品や制御装置関連部品が多いことが特徴です。会員数も110社を超え、単独では取り扱えない案件や自社で取り扱えない案件についても、多様な業種が参画する強みを活かし会員相互間で共同しての受注や、引合情報を共有するなど、高付加価値な取引成約の拡大を目指します。

○飯田ビジネスネットワーク支援センター年度別営業実績の推移

年度	取引成約金額［千円］	引合件数	県外	県内	地区内	取引成約	成約率［%］
13	68,208	193	168	3	22	25	13.0
14	19,628	203	173	6	24	45	22.2
15	66,684	195	157	30	8	40	20.5
16	310,764	151	109	23	19	18	11.9
17	76,558	181	148	10	23	28	15.5
18	275,642	114	95	10	9	30	26.3
19	254,294	126	85	8	33	16	12.7
20	295,453	112	102	0	10	38	33.9
21	308,326	222	215	1	6	36	16.2
22	334,768	223	181	7	35	52	23.3
23	284,735	205	189	0	16	45	22.0
24	306,641	126	117	1	8	47	37.3
25	442,773	139	124	4	11	54	38.8
26	587,390	335	300	6	29	41	12.2
27	726,490	410	375	3	32	42	10.3
28	835,439	491	472	5	14	95	19.3
29	1,032,645	540	468	4	68※	57	10.6
30	1,048,160	581	534	25	22※	58	10.0

※地区内の引合件数が29年度は全国的な好景気により増加しました。30年度は事務局で把握できない会員間の取引が多くなった等による減少と考えられ、今後は会員間取引の把握方法を検討します。



【主なオープンイノベーション】

名　　称	連携先等	進捗状況
パーソナルモビリティーの生産委託	大手車部品メーカー	選考中
FA 用特殊サーボモータ開発パートナー	工作機器メーカー	選考中
配管に薬剤を注入する装置の製造	化学メーカー	選考中

何段階かの選考を経て成約に繋げるため、顧客の要求に適合した企画を提案する技術向上への支援を継続して行います。

（２）南信州企業連携製品開発事業

会員企業ネットワークを強化することで、「南信州独自の製品」を生み出していくための取り組みを行いました。地域内企業による新商品・新事業開発報告会を開催し、開発の経緯、現状や製品の特長などを紹介し、情報の共有を図りました。

【主な開発案件】

名称	連絡先等	進捗状況
シラスンダーシステムの延長として、運転者への警告システム	高速道路関連商社	販売、開発継続
２０ｋＷ対応水力発電システム	地方自治体	開発完了
リハビリ用下肢荷重測定装置	医療機関	販売、開発継続
シャチハタ印刷パッドゴムの塩洗い出し装置	商社	販売
伊賀良井発電所		販売
イングリッシュハンドベル		開発継続
平面発光 LED 照明装置	飯田市美術博物館	開発継続

販売に繋がっているものから、開発を完了し評価を行いながら市販に向けた改良を行うもの、開発を継続しているものなど、それぞれの進捗状況は異なりますが、異業種との連携による製品開発の取り組みは、次年度も継続して行います。

また、より付加価値の高い受注を受けるために、営業力向上や開発スキルの向上による顧客のニーズにマッチした提案が必要であるため、オーガナイザーをはじめ産学官金等の連携を強める取り組みも強化します。

（３）地域内産業連携事業

以下のような連携事業を行いました。

・機械加工分野とソフトウェア分野の連携
・生産機器、設備等の修理、メンテナンスの連携
・大手メーカーよりの受注への連携した活動

５．工業技術センター・ＥＭＣセンター運営事業

（１）工業技術センター

工業技術センターは、平成 30 年 8 月に飯田市上郷から飯田市座光寺に移設となりました。移設準備のため、１ヶ月程業務を一時休止しました。その影響や大手企業の利用回数の減少、試験機器を自前で持つようになり、依頼試験が減少したためか、30 年度は、前年度に対し、地域外・地域内の利用件数、測定料収入がともに減少しました。

前年度と比較して、電気分野は減少し、精密品関係、食品分野、測定機器類の校正関係が増加しました。

しかし、収入には結び付かないものの、中核支援機関としての役割である新製品開発のための分析や技術相談には積極的に応じることができました。また、公的機関の役割である測定機器や電気計測器の校正業務においては、試験成績書・校正証明書の発行を積極的に行いました。

工業技術センターでは、校正業務だけでなく、不具合原因調査や事故解析、微量成分、有機物、樹脂などの定性、定量分析、金属・樹脂等の破断解析、さらには臭気やガス成分等と多岐にわたる分析・解析を行っています。

最近の傾向として、短期間に試験評価を求められる緊急を要する案件が多く、内容的には、金属・有機物・樹脂などの異物や付着物の定性・定量分析、金属・樹脂製品等の破断解析、さらに臭気やガス成分等の分析依頼があり、機械金属分野だけでなく、電気分野、混入異物や変色等といった食品分野からの依頼も多くなっています。

冷熱衝撃試験機の多サイクル試験、高温クリープ試験機の新規顧客の利用がありました。

特に、利用頻度の高い分析・解析分野においては、分析・解析精度の向上を図り、更に、利用企業の利便性を高め、利用しやすいセンターを目指しています。また、平成 27 年度内閣府地方創生先行型・上乗せ交付金により導入しました三次元測定器、真円度測定器、高速液体クロマトグラフ質量分析装置、小型超低温恒温器・冷熱衝撃試験機、引張・圧縮・曲げ試験機を含めて環境試験設備について試験機器ガイドを作成し、航空機システムメーカー等へ情報発信することによ

り、技術連携の強化や利用度の向上を図ることが必要であるためPR活動を実施しました。

①Ｗｅｂ及びパンフレット等による情報発信

②Ｗｅｂ環境構築及び環境試験機器データ作成

③環境試験機器パンフレット作成

エス・バードの支援機関の機能拡充・強化として平成30年度航空機産業環境試験整備運用支援事業補助金(長野県)により、材料庫を改修し、アメリカ航空局（FAA）と民間航空機規格RTCA-DO160に対応した燃焼・耐火性試験装置を導入しました。この機器の導入により、着氷試験装置、防爆性試験評価装置と合わせて海外でなければ出来なかった試験が国内で実施可能になったことから、機器貸出だけでなく依頼試験も積極的に行っていきます。

【燃焼・耐火性試験装置】

燃焼性試験チャンバー

垂直炎伝達性試験チャンバー

オイルバーナー

また、この事業により、RTCA/DO-160の要求事項や環境試験に関する知識のレクチャーを米国航空当局と関係の深いDesignated Engineering Representative(DER)を招へいし、次のとおり防爆性試験評価装置を使用してマニュアルや試験成績書作成に向けたトレーニングを受けました。

実施日：平成30年10月16日から平成30年10月18日　3日間

場　所：エス・バード

内　容：環境試験のセットアップからレポート作成までの試験トレーニング

（適用基準　RTCA-DO１６０G　Sec.9　＆ MIL-STD-810G 511.6 Procedure Ⅰ＆Ⅱ）

①RTCA-DO160G Sec.9 Ｃａｔｅｇｏｒｙ Ｅ

②MIL-STD-810G 511.6 ProcedureⅡ

③MIL-STD-810G 511.6 ProcedureⅠ

環境試験等インフラ整備に係る課題検討ＷＧの防爆試験設備を活用した実証事業として、 国土交通省の検査官の支援を受けると共に、国内企業の協力の下で実証試験を行うとともに、 国内の試験専門会社等の知見等を活用し、国際的に信頼性の高いデータ・レポートの提出に資する必要な設備ごとのオペレーションマニュアルの作成について検討しました。

（実証試験の概要）

①目的

南信州・飯田産業センターに導入した防爆試験装置の有効活用を主目的に、防

爆試験装置の本格稼働前に、実証試験を実施することで試験の手順、データ、試験結果の検証、 試験装置の問題点確認、操作手順の確立を図った。

②実証試験品

スタンバイ統合表示装置（TKK 株式会社製）

③試験要求仕様

RTCA DO-160G　Section9　CategoryE4）

④実施日

平成 30 年 10 月 31 日～11 月 1 日

特別教室棟を改修し、食品試作室、食品評価室、食品分析室、調理室、会議室、インキュベーション室を整備しました。食品分析室には、味覚認識装置（味覚センサー）食品食感試験装置（レオメータ）、恒温器、乾燥機等を導入しました。食品関連企業等へ広くＰＲし、導入した試験機器を有効活用し、支援機関として技術支援を図っていきます。

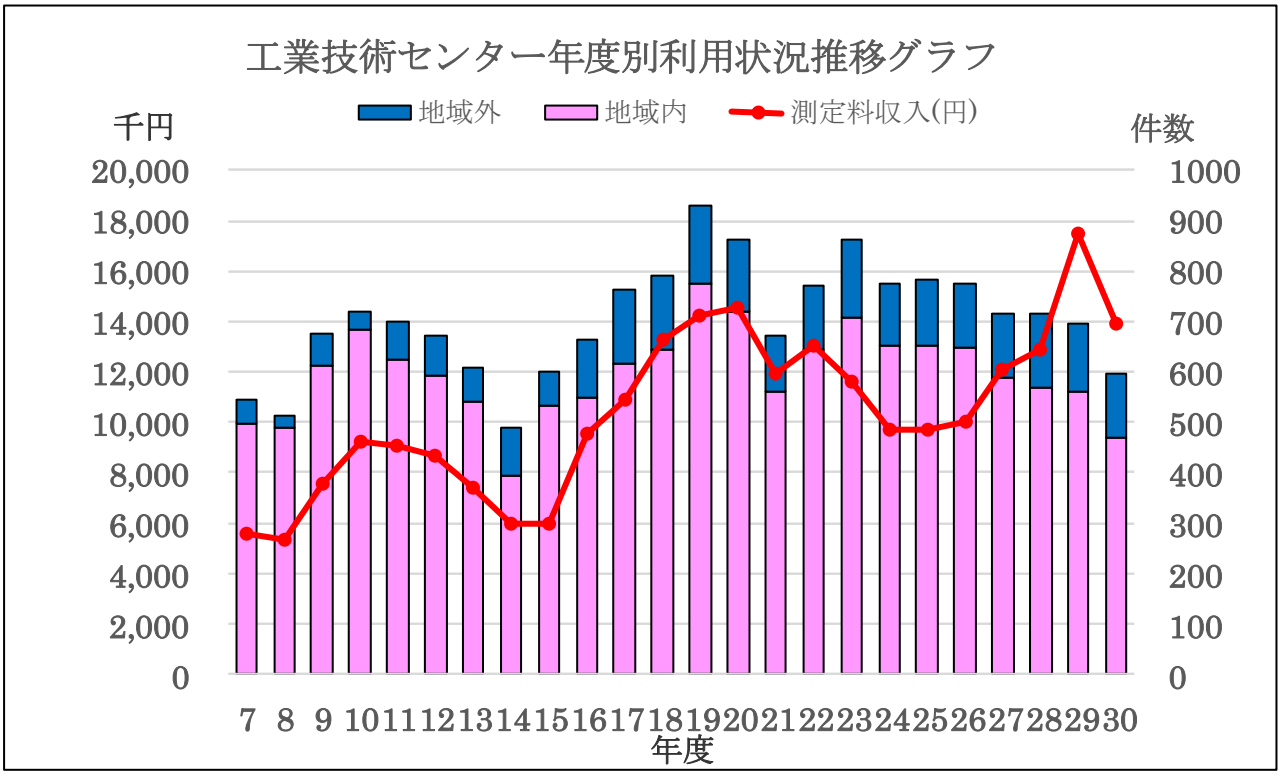
【食品系試験室　試験機器】

味覚センサー

レオメータ

恒温器

遠心分離器



工業技術センター年度別利用状況の推移

年度	地域内	地域外	測定料収入(円)	年度	地域内	地域外	測定料収入(円)
7	496	47	5,593,445	19	775	157	14,192,410
8	488	25	5,354,318	20	721	142	14,562,665
9	614	60	7,581,930	21	561	112	11,889,370
10	685	36	9,239,201	22	645	128	13,013,615
11	626	73	9,101,935	23	708	156	11,607,660
12	593	78	8,664,980	24	653	123	9,707,550
13	542	65	7,408,560	25	650	132	9,709,030
14	392	96	5,944,465	26	647	128	10,014,401
15	531	71	6,004,105	27	587	127	12,116,452
16	547	117	9,530,230	28	567	147	12,903,429
17	616	147	10,926,385	29	562	133	17,471,701
18	642	147	13,310,805	30	471	125	13,877,783

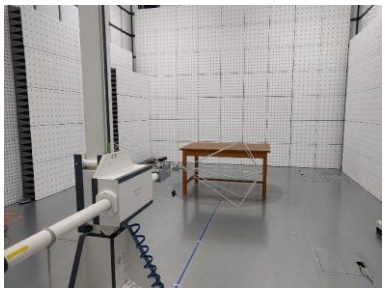
（２）ＥＭＣセンター

平成 30 年度は、前年度と比較すると、利用件数は減少したものの、測定使用料は増加しました。地域別では、県内の企業延数が増え、地元と県外の企業延数は減少しました。試験品としては、一般電気製品、自動車関係の件数が増加しました。特に、防衛関係については、1 週間以上の連続使用が数回ありました。

試験内容は、電気用品安全法による電動工具・家電、電源装置の放射エミッション試験（製品から放射される電磁波ノイズの量を測定する）、自動車関係の放射イミュニティ試験（製品に電磁波を照射して感受性を評価する）が多くありました。

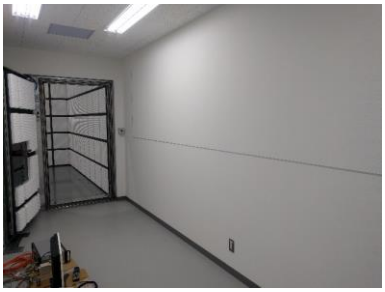
平成 27 年度内閣府地方創生先行型・上乗せ交付金により更新した高周波パワーアンプシステムや耐ノイズ試験装置（RTCA-DO160 対応）を有効活用し、今まで出来なかった試験（民間航空機）が可能になったことから、積極的に企業へのＰＲを行い、自主測定だけでなく、依頼試験も行いました。

今後は、更なる拡充を視野に使用頻度の高い試験分野へ機能を特化させつつ、新たな分野の利用促進を図っていきます。現在、民間航空機に対する試験への対応は出来つつありますが、航空機以外で特に３ｍ法電波暗室では対応できない分野への対応を目指して新たなセンターの方向性について検討しています。

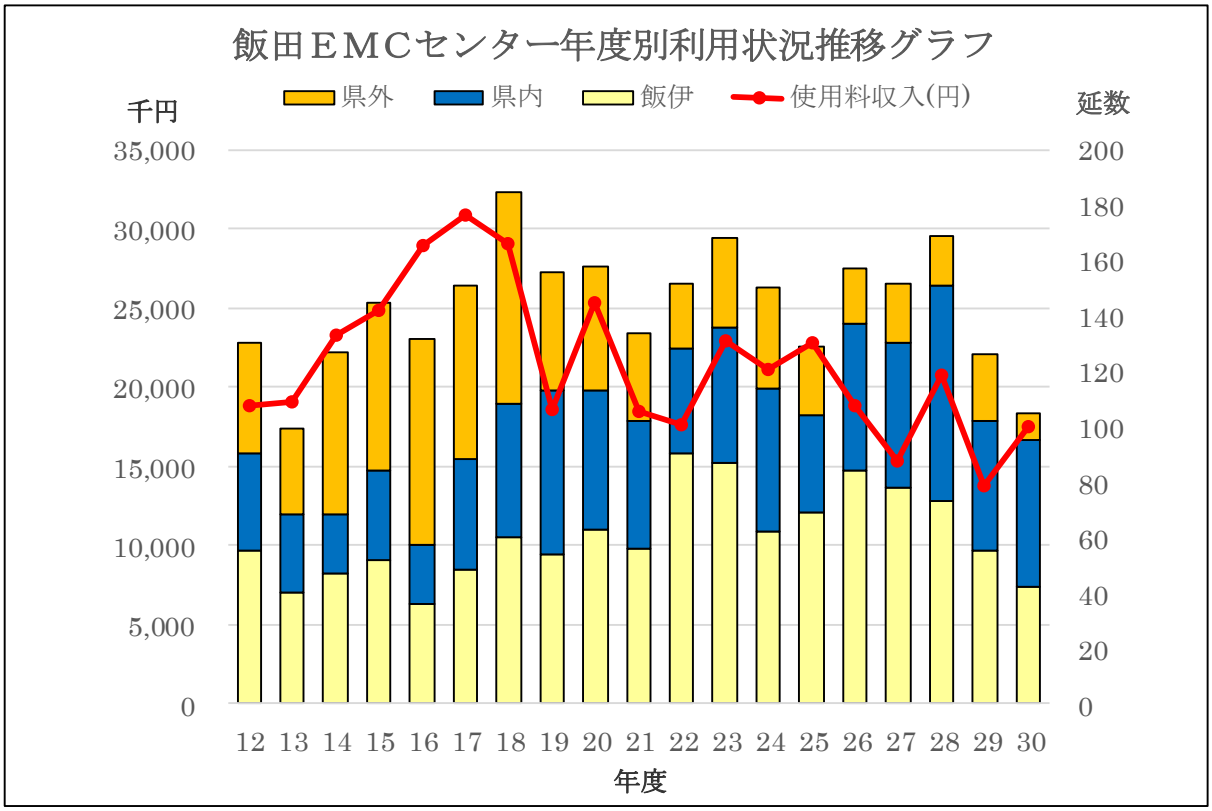


３ｍ法電波暗室

シールドルーム



測定室



飯田ＥＭＣセンター年度別利用状況の推移

年度	飯伊	県内	県外	合計	使用料収入(円)
12	55	35	40	130	18, 835, 613
13	40	28	31	99	19, 115, 219
14	47	21	59	127	23, 281, 082
15	52	32	61	145	24, 908, 820
16	36	21	75	132	28, 984, 704
17	48	40	63	151	30, 911, 757
18	60	48	77	185	29, 049, 161
19	54	59	43	156	18, 544, 548
20	63	50	45	158	25, 388, 460
21	56	46	32	134	18, 430, 305
22	90	38	24	152	17, 618, 425
23	87	49	32	168	22, 936, 222
24	62	52	36	150	21, 157, 010
25	69	35	25	129	22, 795, 505
26	84	53	20	157	18, 882, 921
27	78	52	22	152	15, 347, 747
28	73	78	18	169	20, 767, 249
29	55	47	24	126	13, 748, 111
30	42	53	10	105	17, 517, 785

６．新産業クラスター事業

支援体制を強化するために、クラスターマネージャーやコーディネーターを配置して、新産業クラスター形成をめざして、分野ごとの事業を推進しました。地域内の航空機産業の受注拡大を目指した取り組みでは、技術力の向上や新たな取引先を模索し、展示会への出展と各企業のおける営業活動を行いました。その結果、４社がＳＣの中核化を実現し、川下企業３社との口座開設を行うことができました。

（１）航空宇宙プロジェクト活動支援

①プロジェクト活動推進 全体会議(2回／年)、エアロスペース飯田会議(12回／年)

②ワーキングチーム活動（45回／年）

ＷＴ１（共同受注チーム） 36回、ＷＴ２（品質保証チーム） 4回

ＷＴ３（ソフト研究チーム） 2回、ＷＴ４（生産技術チーム） 3回

③共同顧客開拓及び技術補完企業開拓（14回）

④伊那テクノバレーと連携した各種セミナーの開催

Iot(ＷＴ3/1回)、ロボット(ＷＴ4/3回)導入に向けてのセミナーを実施しました。

⑤一貫生産体制の強化支援

専門コーディネーターによる生産技術・コストダウンのコンサルティング指導

⑥国内外展示会出展等による販路開拓事業

・国際航空宇宙展 2018 東京（11/28～ 11/30）

⑦「アジア№.１航空宇宙産業クラスター形成特区」の変更及び継続申請支援

飯田下伊那 35 事業所指定

⑧航空宇宙産業クラスター拠点工場支援事業

⑨サプライチェーンの機能強化

サプライチェーン（ＳＣ）の代表企業を、㈱ＮＥＸＡＳ１社からマルチ化を図りました。その結果４社がＳＣの中核化を実現し、川下企業３社との口座開設を行うことができました。

（２）メディカルバイオクラスターの運営支援

①医療機器系・食品系分科会（６回/年）

②みそ大学「出前味噌講座」を開催（５回/年）

③国内展示会出展等による PR

・長野県ものづくり企業と医療機器メーカーとの展示交流会 in 本郷(５)(9/6)

④他地域関連団体等の連携

・長野県次世代ヘルスケア産業協議会（２回/年）

・伊那谷アグリイノベーション推進機構（２回/年）

⑤カミン焼印を活用した食育推進事業

・「カミンこうや豆腐レシピコンテスト」を実施（１回/年）。

（３）食品産業クラスターの活動形成支援

①南信州食品産業協議会を中心にＥ棟の利活用についての検討会の開催（２回/年）

（４）環境産業の活動支援
①マイクロ水力発電システムの開発と実証実験支援（環境技術開発センター入居企業）
②伊那谷地域経済研究会（LNG）への参加
③中部電力株式会社との意見交換会（1 回／年）

（５）製品（技術）開発等に関する活動支援
①専門家の派遣とアドバイス支援
②地域や行政課題等の情報を収集し、支援センターと連携し企業へ提供
③各種補助金等の説明及び相談会の開催

（６）次世代航空機開発に必要な環境試験機器の整備と高度技術者の育成及び共同研究体制の構築（地方創生推進交付金）
①環境試験機器（DO-160）の整備（燃焼・耐火性試験装置）
②航空機産業及び環境試験機器に関する人材育成事業
・『飛行機の不思議と岐阜各務原航空宇宙博物館』開催（7/31～8/1）
・環境試験（RTCA　DO-160S9）トレーニング実施（DER）　（10/16～18）
・『JAXA 名古屋空港飛行研究拠点 FLIGHT.OF.DREAMS』見学ツアー（3/19～20）

（７）航空機装備品分野を中心とした技術力向上及び販路拡大を目指したコンサル業務、装備品開発に向けたシミュレーション機能の導入（地方創生推進交付金）
①南信州地域の企業における技術力向上及び販路開拓等のコンサル支援（4～3 月）
②航空機システム技術研究開発用フライトシミュレーター設備整備

（８）航空機産業認証取得・更新支援事業（長野県委託事業）
Nadcap 認証の取得に取り組む事業所に対して支援金を交付しました。
２社（多摩川パーツマニュファクチャリング㈱、岡谷熱処理工業㈱）　1,763 千円

７．拠点工場管理運営事業

地域内全体の実施可能な工程幅を広げ地域内一貫生産体制を確立するため、平成 26 年度に整備した宇宙産業クラスター拠点工場の管理運営を行いました。入居企業と密な連携を取る中で、効果的な運用を目指しております。また、工業技術センターとして表面処理工場棟内にある塩水噴霧・高温クリープ試験を行いました。

入居企業の多摩川パーツマニュファクチャリング(株)は、平成 26 年６月に国際戦略総合特区「アジア№.１航空宇宙産業クラスター形成特区」の認定を受け、現在、地域内外からの受注が拡大しており、Tire１企業から中核企業として期待されています。

整備時の長期借入金の返済については、入居企業から負担いただく家賃を原資としました。

また、エス・バードの視察とセットで国等の関係機関をはじめ多くの視察が訪れるようになり、関心の高さが窺われました。

（１）工場の概要と入居企業

①熱処理工場棟

特殊工程技術（熱処理・非破壊検査）及び共同企業体の営業スペースを有する工場

延床面積　1,041.52 ㎡

事業費　325,972,500 円

入居企業　多摩川パーツマニュファクチャリング（株）

エアロスペース飯田

②表面処理工場棟

特殊工程技術（表面処理）及び工業技術センター検査部門を有する工場

延床面積　1,273 ㎡

事業費　234,882,300 円

入居企業（Ａ）多摩川パーツマニュファクチャリング（株）

（Ｂ）多摩川パーツマニュファクチャリング（株）

（公財）南信州・飯田産業センター工業技術センター

（２）運営に関する費用

拠点工場整備に係る資金調達は、自己資金に加えて、国県補助金、飯田市負担金及び長期借入により整備を進めました。借入金の返済原資は工場家賃収入を充てております。

長期借入金　　借入金額　210,000,000 円　返済期間　20 年元利均等

利率　　1.51％（固定）

家賃収入として、24,033,192 円（年額）の収入がありました。

８．三遠南信・広域連携事業

（１）三遠南信地域

三遠南信地域の連携強化に向けて、各地域で事業を進めました。特に飯田地域では、浜松商工会議所が主体で行っている航空宇宙産業クラスタープロジェクトに参画し、各種展示会やBtoBマッチングに出展しました。引き続き、三遠南信地域間の連携を強化し、営業活動を行っていきます。

①三遠南信地域ネットワーク強化プロジェクト（各クラスタープロジェクト共通）

②次世代輸送用機器産業クラスタープロジェクト（浜松地域）

・三遠南信地域 新技術・新工法展示商談会（株式会社小松製作所 小山工場）11/7

③光・電子産業クラスタープロジェクト（浜松地域）

④健康医療産業クラスタープロジェクト（浜松地域）

⑤新農業クラスタープロジェクト（食農産業クラスター推進事業）（豊橋地域）

⑥航空宇宙産業クラスタープロジェクト

ア　展示会事業

・国際航空宇宙展 2018 東京　　(11/28～ 11/30)

イ　国内 Tier1 商談及び販路開拓事業

・新技術新工法展示商談会 inＩＨＩ　(6/21～ 6/22)

・関係機関訪問（随時）

（２）中京圏地域

アジア№1 航空宇宙産業クラスター形成特区推進協議会については、推進協議会に新たに参加を希望する企業に対し随時相談業務を行うとともに、補助金交付申請等を行ってきました。

（３）関東圏（長野県を含む）

航空機産業に関しては、地域内で完結できない受注に関して、広域連携により解決するための方法について模索しています。その一環として、ビジネスマッチング実施するとともに、他地域の航空宇宙産業クラスターの視察や受け入れを積極的に実施しました。

９．産業振興と人材育成の拠点整備事業

（１）産業振興と人材育成の拠点づくり

平成 30 年 12 月をもって上郷別府のセンターを閉館し、平成 31 年１月４日よりエス・バードへ事務局を移転し、また、オープンを記念し、竣工記念式典及びオープニングイベントを開催しました。

①竣工記念式典

日　時　平成 31 年３月 21 日（祝）10:15～12:00

内　容　・建設関係業者、寄付者への感謝状贈呈

・記念講演「我が国の航空機産業と地域産業の振興について」

経済産業省製造産業局　井上宏司　局長

・研究発表「航空機システム共同研究講座の研究について」

信州大学工学部　柳原正明教授

出席者　国会議員、長野県知事、関東経済産業局、信州大学工学部、長野県産業労働部、南信州地域振興局、南信州広域連合（首長、議員）、飯田商工会議所、地元産業界、地元金融機関等、全 150 名

②オープニングイベント

日　時　平成 31 年３月 24 日（日）10:00～17:00

内　容　おぐねぇーメイク講座、ニッチローものまねショー、小沢あきこ歌謡ショー、三四郎トークライブ、４者によるパネルディスカッション、テックレンジャーショー、飯田女子高校ダンス、地元産業団体等展示、水引等の体験、BeA 協議会等の出展、吉鍋提供、関東経産局管内地場産物産展、うってみまいか市

来場者　3,500 名

（２）Ⅲ期・Ⅳ期整備工事

平成 29 年９月からＢ棟（機械科棟）を中心に、Ⅲ期工事として南信州・飯田産業センター機能（会議室や売店、食事処等）や総合受付、メインエントランス、テラスの整備を行い、平成 30 年 11 月に工事が完了しました。また、食品系試験室（特別教室棟）の改修工事も平成 30 年 12 月に完了したことから、南信州・飯田産業センターは飯田市工業課とともに移転し、平成 31 年１月からエス・バードでの業務を開始しました。

Ⅳ期外構工事は、整備の方向性について長野県等と調整を行い、平成 30 年 10 月から着手しました。令和元年６月中旬の完了予定です。

（３）信州大学航空機システム共同研究講座の支援

平成 29 年４月に開設された信州大学航空機システム共同研究講座は、平成 31 年３月に初めての修士取得者を輩出し、国内重工等に就職することができました。

この講座を支援するコンソーシアムの機能強化、実績作りとともに、より多くの学生が学ぶことができるよう取り組みを進めました。

①コンソーシアムの機能強化

・新規会員の募集を含め、地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）を活用しながら、会員募集及び寄付金集めを実施しました。（企業版ふるさと納税実績飯田市分 14 社、他町村分 13 社　そのほか：個人１名、３社）

②高等教育機関への移行

・信州大学をはじめ関係機関等と連携して情報収集を行いました。

③学生支援

・給付型奨学金制度及び引越しに関する経費支援の実施

給付型奨学金	信大大学院生	Ｍ１：５名　Ｍ２：２名	360,000 円／人
引越し経費支援	信大大学院生	Ｍ１：５名	100,000 円／人

・修士課程修了者の就業支援等の実施

・学部生等に対し経費負担軽減のための宿泊施設を提供

④情報発信の強化

・信州大学の教授を通じて周知活動を実施しました。

・ネット上での情報発信を行いました。

⑤地域企業との連携推進

・地域内企業の技術的知見等を活用や連携をしながら、研究テーマについての支援を実施しました。

⑥その他

・飯田市工業課のスーパーサイエンス事業（航空機の基礎原理やＪＡＸＡ連携）へ大学院生が参加し、地元の小学生への学びの場を提供しました。（7 月、3 月）

（４）デザイン系高等教育機関の設置に向けての展開

南信州広域連合が設置の方向性を打ち出したデザイン系高等教育機関の設置に向けて、次の事業に取り組みました。

①デザイン系高等教育機関コンソーシアム設立発起人会

・平成 30 年５月 30 日

経過報告、コンソーシアムの役割、今後の計画等について検討、

・平成 30 年 6 月 11 日

ランドスケープデザインをテーマとする方向性について意見交換

②デザイン系高等教育機関コンソーシアム設立準備会

・準備会加入者　24 名

※第 1 回準備会を平成 31 年 4 月に、シンポジウムを令和元年 5 月に開催

③アンケート調査（業務委託先　アド・コマーシャル（株））

・目的　長野県全域を調査の対象地域とし、南信州地域の魅力、デザインの必要性及び高等教育機関の必要性を浮き彫りにする。

・対象　県内在住の 15 歳～69 歳の男女及び企業

・結果　南信州地域にとって、ランドスケープデザインを含む地域環境デザイン、地域ブランドデザインの必要性を望む声が多い。また、地域活性化に寄与する学びの場として高等教育機関を望む声が多い。